

【6】入園・入学選抜，公開研

調査項目

1. 入園・入学選抜の状況について

1-1. 以下の学校種・学年における、R6年度入園・入学選抜の「出願数」を教えてください。

1-1-1. 幼稚園は，年少，年中，年長の出願数を，下の学年から「半角数字カンマ区切り」で記してください。該当がない学年には「0」を入れてください。

(年少 55, 年中 23, 年長なしの場合 → 55,23,0)

1-1-2. 小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，義務教育学校は出願数を，半角数字で記してください。

1-1-3. 特別支援学校は各学部の出願数を，下の学年から学部名と共に「半角数字カンマ区切り」で記してください。(小学部 10, 中学部 7, 高等部 6 など)

1-2. 以下の学校種・学年における、R6年度入園・入学選抜の「合格者数」を教えてください。

1-2-1. 幼稚園は，年少，年中，年長の合格者数を，下の学年から「半角数字カンマ区切り」で記してください。該当がない学年には「0」を入れてください。

(年少 20, 年中 20, 年長なしの場合 → 20,20,0)

1-2-2. 小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，義務教育学校は合格者数を，半角数字で記してください。

1-2-3. 特別支援学校は各学部の合格者数を，下の学年から学部名と共に「半角数字カンマ区切り」で記してください。(小学部 5, 中学部 4, 高等部 4 など)

1-3. 学校種ごとの入園・入学選抜方法について，以下の選択肢から該当するものを選んでください。(複数選択可)

①学科試験(国語的なもの) ②学科試験(算数・数学的なもの)

③学科試験(社会科的なもの) ④学科試験(理科的なもの)

⑤学科試験(外国語的なもの) ⑥実技 ⑦口頭試問 ⑧学力調査・発達検査 ⑨行動観察

⑩面接(本人のみ) ⑪面接(保護者のみ) ⑫面接(本人・保護者両方) ⑬その他()

2. 学校研究の取り組み(公開研究会等)

2-1. **R5年度**に公開研究発表会を開催しましたか。 ①実施した ②実施しなかった

2-2. 1で「②実施しなかった」と回答した場合，その理由を教えてください。

※これより先は「①実施した」と回答した場合，お答えください。

2-3. 実施方法を選択肢から選んでください。

①対面 ②オンライン(リアルタイム) ③オンライン(オンデマンド)

④対面&オンラインリアルタイム配信 ⑤対面&オンラインオンデマンド配信

⑥その他()

2-4. 開催日数の合計(半角数字で回答)を記入してください。

2-5. 開催月を選択してください。(複数選択可)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

2-6. 開催月の変更の検討をしていますか。 ①検討している ②検討していない

2-7. 検討をしている理由を教えてください。(2-6で「①検討している」と回答した場合)

2-8. 公開教科等について、該当するものを以下の選択肢から選んでください。①-③は幼稚園を、④-⑧は特別支援学校を主な対象とします。(複数選択可)

- ①全クラス公開 ②一部クラス公開 ③公開クラスなし ④教育課程・指導計画
⑤教科学習 ⑥学習評価・授業改善 ⑦ICT ⑧キャリアプラン ⑨国語 ⑩社会
⑪地理歴史 ⑫公民 ⑬算数・数学 ⑭理科 ⑮生活 ⑯体育・保健体育 ⑰音楽
⑱図画工作 ⑲美術 ⑳技術・家庭 ㉑家庭 ㉒外国語 ㉓情報 ㉔道徳 ㉕総合 ㉖特活
㉗その他()

2-9. 全参加者数(半角数字で回答)を教えてください。

2-10. 一般の参加者からの参加費(資料代等)の徴収はありますか。無い場合は「0」を、ある場合はその金額(半角数字のみ)を記入してください。

2-11. より多くの人に参加してもらうため工夫している点について記入してください。

【概要】

○入園・入学選抜の状況について

- ・幼稚園、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、義務教育学校の出願数の傾向は昨年度調査と大きな変化はない。小学校では、倍率が低下している学校数がやや増加傾向にあり、そのための対応策を講じなければならない状況が生まれる懸念が調査結果から伺える。今後は中学校への連絡進学者数の影響も考えていかなければならない。また、中学校では倍率が2.1倍以上の学校が、昨年度は4割弱であったのに対して、令和6年度は3割を切っている。附属学校園としてどのように魅力を発信していくかが問われるところである。
- ・入園、入学選抜方法については、幼稚園・特別支援学校では、「行動観察」と「面接(本人・保護者)」、小学校では、「行動観察」「口頭試問」「学力調査・発達検査」「実技」が多い。これに対して、中学校以上の校種では、学科試験を課す傾向が強くなっている。

○学校研究の取り組み(公開研究会等)について

- ・コロナ禍の影響が弱まり、全体として公開研の実施数が、令和4年度実施の140件から令和5年度の実施分は196件に増加している。
- ・実施時期については、全体として11月に集中しており、次いで、2月、6月、10月が続いている。特に、中学校では11月実施が令和4年度は36%であったのに対して令和5年度は46%に増え、実施月の集中が見られる。実施時期の極端な集中はかえって参加者の減少や局所化につながる可能性もあるので、開催月の検討には一定の配慮が必要な場合もあると思われる。また、2割を超える学校園が開催月の検討をしているが、教員の負担軽減、参加者や子どもの健康上の配慮、他の行事との兼ね合い、研究の進捗状況などから検討している学校が多い。
- ・実施方法については、対面での実施が増え、オンラインのみの実施が少ない。コロナ禍で実施してきたノウハウを生かし、対面&オンラインのハイブリッド方式の公開も3倍以上となった。それぞれの校園のこれまでの取組の特徴を生かした、多様な発表の形態が見られるようになっている。また、公開に向けて、告知方法、開催日時の設定や回数、発表形態や内容などの視点から各校園で様々な工夫をしていることがわかった。
- ・参加費については、一般参加者から参加費を取らない学校が減っている。これは、対面実施の学校園が増加したことによる影響で、資料を配布するなど、公開方式を以前の形に戻したことによるものと考えられる。

令和6年度全附属調査委員会実態調査報告

【6】入園・入学選抜，公開研

1. 入園・入学選抜の状況について

1-1. 以下の学校種・学年における、R6年度入園・入学選抜の「出願数」を教えてください。

1-2. 以下の学校種・学年における、R6年度入園・入学選抜の「合格者数」を教えてください。

令和6年度入園・入学選抜における出願数と合格者数を、令和5年度のものと比較しながら、校種ごとに整理し順番に示す。本データは、特に小学校以降の連絡進学や推薦枠等について考慮できていない。実態調査の回答の中で補足説明をいただいたものについては、できる限り反映させるようにした。

【幼稚園】

1-1-1. 幼稚園は、年少、年中、年長の出願数を、下の学年から「半角数字カンマ区切り」で記してください。該当がない学年には「0」を入れてください。

(年少 55, 年中 23, 年長なしの場合 → 55,23,0)

1-2-1. 幼稚園は、年少、年中、年長の合格者数を、下の学年から「半角数字カンマ区切り」で記してください。該当がない学年には「0」を入れてください。

(年少 20, 年中 20, 年長なしの場合 → 20,20,0)

学年ごとの出願数／合格者数分布と該当する幼稚園数を下表に示す。例えば、年少・年中3行目のブルーの欄はR6の年少の出願者数が11～20名だったのが14園、合格数が11～20名だったのが19園、年中の出願者数が11～20名だったのが5園、合格数が11～20名だったのが6園であったことを示す。また、校数が多いものを太字で示した。

出願者数・合格数の分布と該当する幼稚園の数（年少・年中）

出願数／ 合格数分布	年少出願		年少合格			年中出願		年中合格	
	R6	R5	R6	R5		R6	R5	R6	R5
0	3	2	3	2		12	10	13	11
1~10	3	1	3	1		21	17	22	18
11~20	14	11	19	17		5	5	6	4
21~30	11	11	13	10		4	4	5	6
31~40	4	2	5	6		1	2	0	0
41~50	4	6	2	2		1	0	0	0
51~60	2	2	1	0		2	1	0	0
61~70	4	4	0	0		0	0	0	0
80~	1	0	0	0		0	0	0	0
計	46	39	46	38		46	39	46	39

年長出願者数と合格者数

出願数／ 合格数分布	年長出願		年長合格	
	R6	R5	R6	R5
0	42	30	42	29
1	1	3	2	4
2	0	2	0	2
3	2	1	1	0
4	0	2	0	2
5	1	0	1	0
計	46	38	46	37

その他（1園該当）

出願（2歳児）7人 → 合格 5人

出願（満3歳）28人 → 合格 15人

【小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、義務教育学校】

1-1-2. 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、義務教育学校は出願数を、半角数字で記してください。

1-2-2. 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、義務教育学校は合格者数を、半角数字で記してください。

各校種ごとに、出願数、合格数、倍率の各分布と該当する学校数を以下に示す。

小学校 出願数・合格数・倍率の分布と該当する学校数

※出願数・合格数・倍率の合計が一致しないのは、非公表としている項目があることによる。

出願数	校数		合格数	校数		倍率	校数	
	R6	R5		R6	R5		R6	R5
～100	18	8	～50	5	5	～1.2	13	6
101～120	7	10	51～70	16	12	1.3～1.5	18	11
121～150	14	9	71～100	17	11	1.6～2.0	8	8
151～200	5	5	101～110	15	13	2.1～3.0	5	4
201～500	3	6	111～	3	3	3.1～4.0	1	4
501～1000	1	2	合計	56	44	4.1～6.0	2	5
1001～	4	2				6.1～	5	2
合計	52	42				合計	52	40

○倍率が1.5倍以下の学校数がやや増加傾向にあり、募集定員の見直しや学区の拡大など志願者を増やすための対応を取らざるを得ない状況が生まれる懸念が調査結果から伺える。中学校への連絡進学者数の影響も考えられ、定員を考える時は、中学校と合わせて見直しを図る必要性が今後生じることも考えられる。全体としては、高倍率の学校との二極化傾向が進んでいるようである。

中学校 出願数・合格数・倍率の分布と該当する学校数

※出願数・合格数・倍率の合計が一致しないのは、非公表としている項目があることによる。

出願数	校数		合格数	校数		倍率	校数	
	R6	R5		R6	R5		R6	R5
～100	5	4	～50	4	6	～1.2	15	12
101～150	10	13	51～100	8	10	1.3～1.5	9	8
151～200	10	10	101～120	9	9	1.6～2.0	12	11
201～300	15	11	121～140	14	12	2.1～3.0	5	7
301～400	4	8	141～160	13	13	3.1～4.0	2	4
401～	7	5	161～	4	1	4.1～6.0	6	5
合計	51	51	合計	52	51	6.1～	1	3
						合計	50	50

○全体として倍率が2.1倍以上の学校が、昨年度は4割弱であったのに対して、令和6年度は3割を切っている。出願数は全体として大きな変化は見られないものの、個々の学校を見ていくと出願者減のため倍率が下がっている学校が微増していることが読み取れる。附属学校園としてどのように魅力を発信していくか、いかに附属学校園のファンを作っていくかが課題であると感じられる。

高等学校、中等教育学校、義務教育学校 出願数と合格数の分布と該当する学校数

※出願数・合格数・倍率の合計が一致しないのは、非公表としている項目があることによる。

高等学校						中等教育学校						義務教育学校					
出願数	校数		合格数	校数		出願数	校数		合格数	校数		出願数	校数		合格数	校数	
	R6	R5		R6	R5		R6	R5		R6	R5		R6	R5		R6	R5
~100	1	0	~100	2	0	~100	0	0	~100	0	2	~50	4	1	~50	5	2
~200	3	2	~200	4	4	~200	0	0	~200	3	4	~60	0	1	~60	2	2
~300	1	1	~300	2	1	~300	0	0	~300	0	0	~70	0	0	~70	1	0
~400	2	1	~400	1	0	~400	0	1	~400	0	0	~80	0	1	~80	0	0
~500	2	1	~500	0	0	~500	0	1	~500	0	0	~90	3	0	~90	0	0
501~	1	0	501~	0	0	~600	1	2	合計	3	6	~100	0	1	~100	2	1
合計	10	5	合計	9	5	~700	0	0				101~	3	1	合計	10	5
						800~	2	2				合計	10	5			
						合計	3	6									

【特別支援学校】

1-1-3. 特別支援学校は各学部の出願数を、下の学年から学部名と共に「半角数字カンマ区切り」で記してください。（小学部 10, 中学部 7, 高等部 6 など）

1-2-3. 特別支援学校は各学部の合格者数を、下の学年から学部名と共に「半角数字カンマ区切り」で記してください。（小学部 5, 中学部 4, 高等部 4 など）

学部ごとの出願数／合格者数分布と該当する学校数を下表に示す。例えば、3行目の小学部のブルーの欄はR6の小学部の出願者数が2人だったのが2校、合格数が2人だったのが6校であったことを示す。

特別支援学校 出願者数・合格数の分布と該当する特別支援学校の数

出願数／ 合格数分布	小学部				中学部				高等部			
	出願数		合格数		出願数		合格数		出願数		合格数	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
0人	1	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0
1人	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
2人	2	2	6	4	0	0	3	0	0	1	3	4
3人	3	2	18	19	2	1	4	6	2	1	3	1
4人	5	1	4	3	2	1	2	2	1	3	0	0
5人	4	3	1	0	3	2	4	3	2	1	3	2
6人	3	3	1	1	4	8	16	15	4	6	3	5
7人	1	4	1	0	4	3	2	0	3	5	3	3
8人	2	4	0	0	6	6	0	1	5	3	13	9
9人	2	2	0	0	5	2	0	0	4	3	2	2
10人	6	4	0	0	2	3	0	0	4	2	1	0
11人	2	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0

出願数／ 合格数分布	小学部				中学部				高等部			
	出願数		合格数		出願数		合格数		出願数		合格数	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
12 人	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
13 人	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
14 人	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15 人～	1	0	0	0	2	2	0	0	1	1	0	0
計	33	29	32	28	33	28	31	27	33	27	31	27

Ⅰ－３．学校種ごとの入園・入学選抜方法について、以下の選択肢から該当するものを選んでください。（複数選択可）

Ⅰ－３ 校種ごとの入園・入学選抜方法

選抜方法	全体		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①学科試験（国語的なもの）	94	82	0	0	14	12	50	49	10	5	1	3	15	12	4	1
②学科試験（算数・数学的なもの）	96	81	0	0	14	12	52	50	10	3	1	3	15	12	4	1
③学科試験（社会的なもの）	50	49	0	0	4	8	36	35	8	3	1	3	0	0	1	0
④学科試験（理科学的なもの）	52	48	0	0	6	7	36	35	8	3	1	3	0	0	1	0
⑤学科試験（外国語的なもの）	14	4	0	0	0	0	4	4	10	0	0	0	0	0	0	0
⑥実技	55	58	5	3	26	20	5	8	0	1	2	1	15	23	2	2
⑦口頭試問	50	29	11	6	28	16	3	2	1	0	0	0	6	4	1	1
⑧学力調査・発達検査	53	49	8	5	26	26	2	2	0	0	0	0	12	13	5	3
⑨行動観察	136	117	43	36	47	39	8	6	0	2	0	2	32	29	6	3
⑩面接（本人のみ）	62	53	2	0	13	12	34	34	5	2	3	2	3	2	2	1
⑪面接（保護者のみ）	30	29	6	6	10	7	0	2	1	0	0	0	11	11	2	3
⑫面接（本人・保護者両方）	76	61	32	25	15	12	3	3	0	0	0	0	24	21	2	0
その他（※）	30	29	5	2	5	1	10	15	3	4	2	3	4	2	1	2
選抜方法の項目の合計	798	689	112	83	208	172	243	245	56	23	11	20	137	129	31	17

※その他

【幼稚園】

・抽せん（２） ・書類審査 ・志願理由 ・健康診断

【小学校】

・心身発達の諸検査 ・抽せん ・思考を問う試験
・運動、言語、数量、音楽、情意、社会性などの面から総合的に（２）

【中学校】

・集団討論等（２） ・調査書等（４） ・集団面接 ・作文 ・志願理由書等（２）
・グループ活動

【高等学校】

- ・ 調査書
- ・ 小論文

【中等教育学校】

- ・ 適性検査（２）

【特別支援学校】

- ・ 運動能力検査
- ・ 作業能力検査（２）
- ・ 社会生活能力検査
- ・ 健康診断
- ・ 人物描写
- ・ 医療機関からの検診結果

【義務教育学校】

- ・ 後期課程の募集はない

○幼稚園・特別支援学校では、「行動観察」と「面接（本人・保護者）」、小学校では、「行動観察」「口頭試問」「学力調査・発達検査」「実技」が多い。これに対して、中学校以上の校種では、「学科試験」を課す傾向が強くなる。特に高等学校では、令和５年度は「外国語的なもの」がなかったが、令和６年度には新たに調査対象１０校全校がこれまで実施してきた「国語的なもの」「数学的なもの」と同様に実施している。また、「面接（本人のみ）」に関しては、６割を超える中学校が実施しているのに対して、高等学校では５割となっている。

２．学校研究の取り組み（公開研究会等）

令和５年度に実施された公開研究発表会について

２－１．Ｒ５年度に公開研究発表会を開催しましたか。 ①実施した ②実施しなかった
--

２－１ Ｒ５公開研究発表会開催の有無

①実施した １９６校園 ②実施しなかった １５校園

２－２．１で「②実施しなかった」と回答した場合、その理由を教えてください。

２－２ 実施しなかった理由について

【幼稚園】

- ・ コロナ以降の人事交流で、公開研究の経験者がほとんどいなくなってしまったため。
- ・ 隔年で実施（３）
- ・ 発表会は成果を伝えるまとめの年のみ実施し、他の年は公開保育研究会（全クラス公開）を対面で２月に１日開催で行っている。

【小学校】

- ・ 隔年で実施（３）

【中学校】

- ・ 隔年で実施（２）
- ・ 新しい研究がスタートしたばかりだったため
- ・ 教員の負担軽減に配慮し、代わりに小規模の授業研究会を分散実施した

【高等学校】

- ・ 現在、研究開発を行っていないため。

【特別支援学校】

- ・ 公開授業研究会を実施した（２）

2-1で「①実施した」学校について

2-3. 実施方法を選択肢から選んでください。

- ①対面 ②オンライン（リアルタイム） ③オンライン（オンデマンド）
④対面&オンラインリアルタイム配信 ⑤対面&オンラインオンデマンド配信
⑥その他（ ）

2-3 公開研実施方法

実施方法	全体		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①対面	139	100	28	21	39	26	43	32	9	5	1	6	11	6	8	4
②オンライン（リアルタイム）	6	14	2	2	1	3	1	4	0	0	0	0	2	5	0	0
③オンライン（オンデマンド）	1	13	0	3	0	3	0	4	0	0	0	0	1	3	0	0
④対面&オンラインリアルタイム配信	27	13	5	3	7	3	4	4	0	0	2	0	8	3	1	0
⑤対面&オンラインオンデマンド配信	21		5		6		2		0		0		8		0	
その他（※）	2		1		0		0		0		0		1		0	
合計	196	140	41	29	53	35	50	44	9	5	3	6	31	17	9	4

※その他

【幼稚園】

- ・①対面を4回、③オンライン（オンデマンド）を1回実施

【特別支援学校】

- ・①対面を公開授業研究会で2回、オンラインの研究協議会を1回実施

○コロナ禍の影響が弱まり、全体として公開研の実施数が、令和4年度実施の140件から令和5年度の実施分は196件に増加している。また、対面での実施が増え、オンラインのみの実施がかなり少なくなっている。一方、コロナ禍で実施してきたノウハウを生かし、対面&オンラインのハイブリッド方式の公開も13件から令和5年度には48件（対面&リアルタイム配信：27件、対面&オンデマンド配信：21件）に増えた。それぞれの校園のこれまでの取組の特徴を生かした、多様な発表の形態が見られるようになっている。

2-4. 開催日数の合計（半角数字で回答）を記入してください。

2-4 公開研開催日数の合計

開催日数	全体		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
1	124	101	27	20	27	21	33	29	9	4	2	7	24	18	2	2
2	40	37	5	4	15	13	13	14	0	0	1	0	4	3	2	3
3	9	15	3	8	3	4	0	2	0	0	0	0	1	1	2	0
4	11	9	6	3	3	1	2	3	0	1	0	1	0	0	0	0
5以上	12	15	1	0	5	6	2	3	0	0	0	0	2	3	3	3
合計	197	177	42	35	53	45	50	51	9	5	3	8	31	25	9	8

2-5. 開催月を選択してください。（複数選択可）

2-5 公開研開催月

開催月	全体		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
1	27	24	5	3	9	7	3	3	0	0	0	0	8	9	2	2
2	42	44	7	8	16	17	4	7	1	3	1	3	8	5	5	1
3	0	3	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	14	8	0	0	5	2	6	6	0	0	0	0	0	0	3	0
6	40	38	12	12	15	13	9	10	0	0	0	0	1	1	3	2
7	14	16	3	2	4	6	3	5	0	0	0	0	4	2	0	1
8	5	3	2	0	1	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0
9	7	9	3	3	1	2	1	2	0	0	0	0	2	1	0	1
10	31	34	11	10	7	7	8	11	1	1	0	1	2	1	2	3
11	86	77	14	19	19	18	32	27	6	2	3	2	6	5	6	4
12	21	16	7	4	4	3	2	2	1	0	0	0	5	5	2	2
合計	287	274	64	63	81	77	69	76	9	6	4	6	37	30	23	16

○全体として11月に集中しており、次いで、2月、6月、10月が続いている。特に、中学校では11月実施が令和4年度は36%であったのに対して令和5年度は46%に増え、実施月の集中が見られる。校種ごとに開催月が集中しすぎるとかえって参加者の減になったり、一定の学校に参加者が偏るなどの課題も起こる可能性が考えられる。開催月の検討には地域ごとに実施時期の調整を行うなどの配慮が必要な場合もあると思われる。

2-6. 開催月の変更の検討をしていますか。 ①検討している ②検討していない

2-6 開催月の変更の有無

開催月	全体	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	中等教育	特別支援	義務教育
検討している	46	15	12	6	2	0	8	3
検討していない	150	26	41	44	7	3	23	6
合計	196	41	53	50	9	3	31	9

2-7. 検討をしている理由を教えてください。（2-6で「①検討している」と回答した場合）

2-7 開催月の変更検討の理由

【幼稚園】

○負担軽減（1）

・教育実習の時期を避けるため

○健康上の配慮（１）

- ・体調を崩す園児や保護者、教職員が多い月であったため

○行事等の兼ね合い（５）

- ・改修工事、全体計画等を考慮

○研究の進捗状況等（３）

- ・研究成果を盛り込むため ／ 研究内容との関係から実施しやすい月を検討するため

○開催数の変更（２）

- ・環境を通した保育を展開する園として四季それぞれの保育を提供する必要性を感じるため

○参加者の確保（１）

- ・アンケート等で別の時期の実施要望があったため

【小学校】

○負担軽減（２）

- ・全教員が同時期に多忙な時期を迎えることを回避する必要があるため

○健康上の配慮（１）

- ・感染症の流行を考慮して

○行事等の兼ね合い（７）

- ・大学の入試と重なるため ／ 体育大会の実施の変更による ／ 教育実習日程変更のため

○研究の進捗状況等（１）

- ・年度をまたがずに研究のまとめを行うため。

○公開研の開催数やあり方の見直し（１）

- ・公開研のあり方を検討中のため

○参加者の確保（１）

【中学校】

○負担軽減（１）

- ・教育実習の関係から

○行事等の兼ね合い（３）

- ・中学３年の進路の時期とずらしたい。

○研究の進捗状況等（１）

- ・校内研究サイクルの見直しとカリキュラム・マネジメント、

○参加者の確保（２）

- ・更なる参会者数確保のため ／ 他校の教員が参加しやすい時期を常に検討している。

【高等学校】

○行事等の兼ね合い（１）

○参加者の確保（１）

- ・人がより集まりやすい日程について検討中

【特別支援学校】

○負担軽減（２）

- ・前年度末から新年度にかけて準備期間が、他の業務と重なるなど、教員の多忙感を解消するため。

○健康上の配慮（１）

- ・夏の暑さに対応できる冷房環境が十分ではないため

○行事等の兼ね合い（２）

○研究の進捗状況等（３）

- ・発表年度の研究成果を盛り込むためにできる限り遅くした ／ 新たな研究テーマを設定したため

○参加者の確保（１）

- ・参加者が来校しやすい時期に設定したいため。

【義務教育学校】

○行事等の兼ね合い（２）

○公開研の開催数やあり方の見直し（１）

・いろいろな場面、学年の公開授業を見ていただきたいため

２－８．公開教科等について、該当するものを以下の選択肢から選んでください。①－③は幼稚園を，④－⑧は特別支援学校を主な対象とします。（複数選択可）

２－８ 公開研公開教科等

公開授業等	全体		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①全クラス公開	69	45	34	32	15	0	12	6	0	0	0	0	6	6	2	1
②一部クラス公開	52	26	6	5	14	1	13	12	5	1	1	1	8	4	5	2
③公開クラスなし	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④教育課程・指導計画	23	26	1	2	4	7	6	2	0	1	0	0	11	12	1	2
⑤教科学習	51	36	0	0	19	17	13	9	1	1	0	0	13	7	5	2
⑥学習評価・授業改善	27	26	0	0	8	7	3	4	1	0	1	0	13	14	1	1
⑦ＩＣＴ	23	23	0	0	10	10	4	7	1	1	0	0	7	4	1	1
⑧キャリアプラン	5	6	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	5	3	0	0
⑨国語	109	85	0	0	43	21	44	45	5	5	2	4	7	5	8	5
⑩社会	101	90	0	0	44	36	45	42	2	2	1	4	1	1	8	5
⑪地理歴史	15	13	0	0	0	1	7	7	6	3	1	1	0	1	1	0
⑫公民	14	3	0	0	0	0	8	3	4	0	1	0	0	0	1	0
⑬算数・数学	105	97	0	0	43	35	44	44	5	3	2	5	3	5	8	5
⑭理科	103	93	0	0	42	35	44	42	6	4	2	6	1	1	8	5
⑮生活	39	29	0	0	33	27	0	1	0	0	0	0	2	0	4	1
⑯体育・保健体育	100	89	0	0	43	36	40	39	5	2	2	5	2	2	8	5
⑰音楽	90	39	0	0	42	33	36	0	2	1	2	1	1	0	7	4
⑱図画工作	46	39	0	0	38	32	1	3	0	0	0	0	1	2	6	2
⑲美術	50	47	0	0	5	0	37	38	2	1	2	1	0	3	4	4
⑳技術・家庭	45	46	0	0	4	1	35	35	0	2	1	2	0	2	5	4
㉑家庭	32	28	0	0	22	20	6	4	1	1	0	1	0	1	3	1
㉒外国語	97	88	0	0	39	31	43	43	6	3	1	5	0	1	8	5
㉓情報	7	10	1	0	5	2	0	1	0	2	1	4	0	1	0	0
㉔道徳	48	46	0	0	35	28	10	15	0	0	0	0	0	0	3	3
㉕総合	57	45	0	0	25	19	19	12	3	4	2	4	1	0	7	6
㉖特活	15	14	1	0	10	11	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0
その他（※）	18	9	0	2	3	3	4	0	2	1	1	0	8	3	0	0
合計	1326	1092	46	44	546	413	478	420	57	38	23	44	90	78	104	64

※その他（複数回答あり）

【小学校】

- ・総合＋道徳＋学活の独自領域（教育課程特例校指定）
- ・研究開発学校の特例等による領域（２）

【中学校】

- ・インクルーシブ教育
- ・各教科が隔年で授業公開（音楽、美術、技術・家庭は３年に一度）
- ・研究開発学校の特例等による領域
- ・自立活動

【高等学校】

- ・社理英と国数体芸を隔年で開催
- ・年によって異なる

【中等教育学校】

- ・探究学習

【特別支援学校】

- ・各教科等を合わせた指導（３）
- ・自立活動（３）
- ・生活単元学習（２）
- ・職業・家庭科
- ・作業学習（２）
- ・学校設定教科
- ・特別支援教育支援法等

２－９．全参加者数（半角数字で回答）を教えてください。

２－９ 公開研全参加者数

参加者数	全体		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
１～５０	6	11	2	4	0	0	1	0	0	0	0	1	3	6	0	0
５１～１００	26	28	15	13	1	1	4	8	1	3	0	0	5	2	0	1
１０１～２００	55	52	19	12	3	7	10	14	4	2	1	3	17	13	1	1
２０１～３００	35	35	2	2	14	9	11	16	2	0	2	2	3	4	1	2
３０１～４００	20	15	0	0	7	9	8	6	2	0	0	0	1	0	2	0
４０１～５００	17	8	3	1	6	2	7	4	0	0	0	0	1	0	0	1
５０１～６００	6	7	0	2	4	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
６０１～８００	16	5	0	0	8	4	3	0	0	0	0	0	0	0	5	1
８０１～１０００	2	3	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
１００１～	8	7	0	0	7	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	191	171	41	34	52	43	47	52	9	5	3	6	30	25	9	6

2-10. 一般の参加者からの参加費（資料代等）の徴収はありますか。無い場合は「0」を、ある場合はその金額（半角数字のみ）を記入してください。

2-10 公開研一般参加者の参加費

一般の参加費 (円)	全体		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
0	90	110	14	18	16	21	28	35	6	5	1	6	20	22	5	3
~500	9	6	4	4	1	1	2	1	0	0	0	0	2	0	0	0
~1000	26	19	7	4	6	5	5	6	2	0	0	0	4	3	2	1
~1500	14	5	4	3	3	1	3	0	0	0	2	0	2	1	0	0
~2000	33	27	5	6	14	9	10	9	1	0	0	0	1	1	2	2
~2500	2	3	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~3000	10	9	2	0	6	8	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0
3000~	3	1	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
その他(※)	8	0	4		3		0		0		0		1		0	
合計	195	180	41	37	53	46	49	53	9	5	3	6	31	27	9	6

※その他

【幼稚園】

- ・500円だが、資料を購入希望者は、さらに1300円
- ・半日参加500円、1日参加1000円
- ・昨年度は国費委託事業のため0、本年度は1500
- ・対面2000円 オンデマンド1000円

【小学校】

- ・一般2000円、学生1500円
- ・秋 0円 冬 1000円
- ・2000円（学生は半額）

【特別支援学校】

- ・4年間の研究のまとめである冊子購入の場合、1000円集金した。

○一般参加者から参加費を取らない学校が110校園から90校に減っている。これは、2-3「公開研実施方法」で見えてきたように、「対面&オンラインのハイブリッド方式」も含めた、対面実施の学校園が113校園から187校園に増えたことによる影響と考えられる。公開研を対面や形態を一部変えたオンラインとの併用方式で実施することで、来校者に資料等を配布するため参加費を取る校園が以前のように増加してきたためと考えられる。

2-11. より多くの人に参加してもらうため工夫している点について記入してください。

2-11 参加者拡大のための工夫点

1. 告知方法の工夫～162件

【広報の重要性】13

- ・丁寧な情報宣伝活動・情報発信
- 【持参】 4
- ・教育委員会、県内中学校、大学関係者へ要項を送付または持参する
- ・管理職による挨拶回りや地域の学校へ訪問
- 【電話】 1
- ・電話等による個別依頼
- 【郵送】 5
- ・案内状の複数回発送
- ・同じ機構である附属幼稚園と合同で案内を送付
- 【ホームページ】 2 3
- ・公開研の特色についてPRする動画や実践・研究の成果を配信
- ・ホームページからの参加申込
- 【メール】 6
- ・案内文書は一括メール配信とする
- 【SNS】 9
- ・LINEによる発信・案内
- ・InstagramやHPにて授業提案に係る動画を掲載する
- 【外部媒体の活用】 7
- ・雑誌・各種研究会情報サイトに掲載を依頼
- ・教科書会社等のホームページに案内を記載
- 【外部団体の協力】 2 2
- ・全附連を通じて案内の配信
- ・県教委や市町教委に公開研究会の開催を案内し、各学校への紹介を依頼
- ・県・市・教育団体等のメーリングリストを活用した発信
- ・園長会・校長会・教頭会に参加しアナウンスを実施
- ・近隣の市町村への後援依頼
- ・大学教員に講演先やネットワーク等での広報を依頼
- ・研修会・校外での会議・地区の夏季教科研究会等におけるPR活動
- 【対象機関】 4 6
- ・全国附属学校園
- ・近隣、市内、県内の保育園・学校園
- ・私立学校園にも案内を行う
- ・県教育委員会、県内全教育委員会
- ・教育事務所単位でのチラシの配布
- ・県庁の障害福祉関係等
- ・校長会や教頭会
- ・各種研修会・市内の教科主任会等での声かけ・案内配付
- ・大学との連携（教育学部実習生の参加）
- 【対象者】 6
- ・過去の参加へのメール配信
- ・過去の参加者がいた学校への案内郵送
- 【媒体の工夫】 7
- ・リーフレットの作成と配布
- ・広報フライヤーのデザイン改善
- ・当日の概要を分かりやすく表現したチラシの配布

- ・ポスター、2次案内の工夫（内容が分かりやすく伝わるよう）
- ・配付ちらしにQRコードを掲載し申込みを簡略化

【発信時期】 7

- ・大会案内時期を早くする
- ・HPにも案内を早めに出す
- ・2次案内を1か月早く送付
- ・Web掲載時期の最適化

【発信頻度】 2

- ・公開研の前に三度、全校授業研究会の様子をオンデマンド配信している
- ・メールで複数回案内を発出

【連携】 2

- ・県の教育センターの選択研修に指定していただく
- ・県教育委員会の研修会にも位置付けてもらい、年次研修などで案内を実施

【内容のアピール】 2

- ・本校の取組を他の研究大会や雑誌等で積極的に発表する
- ・文部科学省から研究開発学校の指定を受けて取り組んでいる特色ある教育研究の成果を積極的に発信

2. 開催日の工夫～27件

【土曜】 12

- ・土曜開催
- ・開催2日間のうち1日は土曜開催にする

【休日開催】 1

【午前】 1

- ・開催時間を短縮する（午前中の中の開催）

【午後】 4

- ・教科の公開を午後からとし、参加しやすいようにした

【時期】 4

- ・ニーズによって来る人が違うため、秋と冬に2回に開催
- ・開催時期を夏休み終期にし、教員が参加しやすいように配慮

【日付】 2

- ・地区や県の中文祭など、他の大きな行事と同日にならないように留意
- ・幼小中学校同時開催

【日数】 3

- ・2日又は3日に分けての開催
- ・2日間開催

3. 公開発表形態の工夫～64件

【オンラインの活用】 17

- ・対面方式に加えて、動画配信やZOOM, TEAMSでの同時配信も行う
- ・対面開催に加えオンデマンド配信も実施する
- ・全体会（シンポジウム）をオンラインでも視聴できるようにした
- ・授業（対面）と研究協議（オンライン）の分散開催

【参加費無料】 13

- ・令和6年度より参加費を徴収しないこととした

- ・ 附属の教職員、本校勤務経験者、行政関係者、大学関係者（学生も含む）は参加費を無料とする
- ・ 大学生は参会費を安くする
- ・ 近隣区の公立学校の教員を無料招待している

【実施回数の増加】 8

- ・ 全教科実施の公開研究会のほかに、教科ごとの公開授業を複数回設けることで、先生方が参加できる機会を増やしている。
- ・ 可能な限り最大の公開授業数を設定
- ・ 年間を通して継続的に授業研究会を開催するなど、県内・市内の先生方と学び合う機会を創出することに努めている

【成果の発信】 3

- ・ 研究会前日にプレ公開保育を実施し、本園の取組に関心をもってもらえるようにした。
- ・ 年間3回の研究広報冊子の発刊
- ・ 事後アンケート回答への事例集の送付

【内容の工夫】 6

- ・ 人数を増やす工夫から、公開した内容の活用度やリピーターを増やす工夫にシフトしている
- ・ 研究に関する資料として全授業で動画を作成
- ・ 公開研については、専用のホームページを作成して、年間を通じて見られるようにしている
- ・ アーカイブコーナーを作り、指導案の提供などを行っている
- ・ アレンジして勤務校で使えるような教材等を資料として配付している

【形式の工夫】 4

- ・ 全体を早く終わりにして自由参観タイムを設定
- ・ 本校教員と参会者がディスカッションできる場を設定
- ・ 授業後の研究協議において、研究協力者である大学教員による授業解説を兼ねたワークショップを実施し、教員育成機関としての特色を生かした公開研究協議会となるよう工夫

【連携・位置づけ】 3

- ・ 国公立幼稚園・こども園の研修会と兼ねて実施
- ・ 三校園を同日開催とし、幼小中の連続した学びの姿を公開
- ・ 中堅教員研修として位置づけ

【受付人数】 2

- ・ 大勢の参観者に囲まれていると、子どもが落ち着かず、いつもの遊びの姿が見られないため、参観者数を限定している
- ・ 参加型研究会のため、運営上150名程度が限界と踏まえ、当日欠席者を予想し、160名程度受け付けると共に、キャンセル待ちも受け付けており、キャンセル連絡があれば、キャンセル待ちの方に連絡し、その時点で参加されるか考えていただいている

【運営】 1

- ・ 駐車場の確保（隣の附小）

【受付方法】 7

- ・ Webでの申し込みの実施（Formsやpeatixなど）
- ・ 複数の方法（電子、FAX、電話）で実施

4. 発表内容・授業内容の工夫～33件

【研究テーマ・内容の精選】 18

- ・ 魅力のある研究内容を提供する
- ・ 一般者の方に対して、魅力ある講演テーマを設定する
- ・ 汎用性のある保育の公開

- ・公開教科の選定
- ・県教育委員会の教育ビジョンを踏まえた研究・授業を公開している
- ・アンケートをとり、参会者のニーズ・教育のニーズを踏まえた研究を進めること
- ・参加者の申込時に実施する「事前アンケート」を踏まえ、参加者のニーズにあった公開を実施
- ・幼小中一貫教育の提案
- ・若い教員にも分かりやすくすることを心掛けている

【講師の選定】 9

- ・先進的な研究をしている講師、著名な講師を選定する
- ・研究協力者の公募
- ・著名な講師を招聘し、ニーズのテーマに基づく講演会を実施している

【授業の質の向上】 6

- ・分かりやすい提案とよりよい授業づくり